

「JAグループ残留農薬分析研究会」開催

4年ぶりに集合形式で開催し、47名が参加

残留農薬検査室では、残留農薬分析に関する知識・技術向上と情報交換を目的に、JAグループの営農および残留農薬分析関係者を対象とした「JAグループ残留農薬分析研究会」を2001年から継続して開催しています。23回目となる今回は、2023年10月26～27日、営農・技術センター（神奈川県平塚市）で4年ぶりとなる集合形式で開催し、会場とWebで計47名が参加しました。

講演や外部技能試験結果の講評

最初に、全農 農薬技術対策室より「農薬・防除に関する最近の情勢」を説明しました。残留農薬検査の担当者は、検査対象としている農薬が日々「どのように使われているか？」などを知る機会が少ないため、熱心に聴講していました。

続いて、前明治薬科大学特任教授の永山敏廣氏より「残留農薬を取り巻く最近の情勢」について講演いただきました。残留農薬に長く携わっておられる永山氏からは、最新の法規制や分析方法の状況など、貴重なお話を聞くことができました。

次に、(一財)日本食品分析センターより、外部技能試験の結果について講評いただきました。この試験は、JAグループの残留農薬検査の信頼性を高めるために毎年実施している



写真1 「JAグループ残留農薬分析研究会」の開催風景(営農・技術センター)

もので、本年度はこまつなを対象としました。

その後、各検査機関の分析担当者に対する教育訓練や、業務効率化に関する取り組みについて、事前に実施したアンケートをもとに意見交換を行いました。残留農薬検査室の各担当からもそれぞれの取り組み状況を報告し、各機関と情報を共有しました。

残留農薬検査室より話題提供

2日目は、残留農薬検査室より2件の話題提供を行いました。まず、全農が部門間で連携して取り組んでいる「子実とうもろこし」に関して、今年度より残留農薬検査室が担当しているカビ毒検査の状況を紹介しました。

続いて、残留農薬検査の結果報告における分析対象物質の記載について、実際の報告書の様式も示しながら、検査依頼者に明確に伝えるべき点、注意すべき点などの説明を行いました。

その後、残留農薬分析に関する技術的課題(新しい分析方法、測定機器のメンテナンスなど)について、事前に実施したアンケートをもとに、各機関からの報告も交えて意見交換を行い、各種状況を共有しました。

残留農薬検査室では、今後も「JAグループ残留農薬分析研究会」を開催し、講演などによる情報提供や、参加者との意見・情報交換を通じて、JAグループの残留農薬検査のレベルアップを図っていきます。

【全農 耕種総合対策部 残留農薬検査室】

表1 令和5年度「JAグループ残留農薬分析研究会」の開催内容

日付	内容	担当	日付	内容	担当
10月26日	講演(1) 「農薬・防除に関する最近の情勢」	全農 耕種資材部 農業課 農薬技術対策室	10月27日	話題提供(1) 「子実とうもろこしのカビ毒検査について」	全農 残留農薬検査室
	講演(2) 「残留農薬を取り巻く最近の情勢」	前明治薬科大学 特任教授 永山敏廣氏		話題提供(2) 「残留農薬検査の結果報告における分析対象物質の記載について」	全農 残留農薬検査室
	こまつなを用いた外部技能試験 (概要と講評)	(一財)日本食品分析センター		意見交換(2) 残留農薬検査技術に関する課題について	(進行)残留農薬検査室
	意見交換(1) 検査実務に関する取り組み状況について	(進行)残留農薬検査室			